

日本一のブランド米をめざして

つや姫だより



第2号

平成30年5月21日

庄内総合支庁農業技術普及課

初期茎数を確保する水管理のポイント

●乾土効果は「平年並～やや小さい」と見込まれます

鶴岡田川地域では4月26日の耕起盛期以降、曇りまたは晴れの日が続きましたが、平年に比べ土塊の乾燥は進まず、今年の乾土効果は「平年並～やや小さい」と推定されています。

表1 年次別乾土効果

年次	H30	H29	H28	H27	H26	H25
乾土効果	<u>平年並～やや小さい</u>	大きい	平年並	大きい	大きい	小さい

(水田農業試験場調べ)

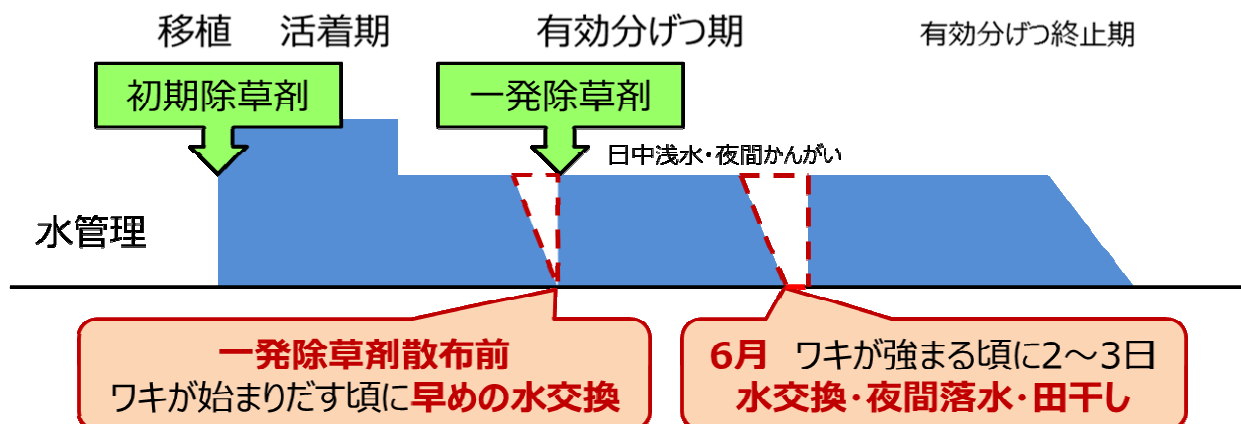
●活着後のこまめな水管理で初期生育を確保

活着が確認されたら、分けつの発生を促進するため、浅水管理(水深2～3cm)を行うとともに、昼間止水・夜間灌漑により生育促進を図りましょう。なお、強風や低温が続く時は、水深をやや深めにして稲体を保護しましょう。

●土壌還元(ワキ)対策

一発除草剤散布後は、7日間湛水状態を保つ必要があるため、その間に土壌還元(ワキ)が進んでしまいます。表層剥離やアオミドロによる除草剤の拡散ムラを防ぐためにも、一発除草剤散布前に水交換を行い、入水後に除草剤を散布しましょう。

その後、ワキの程度が強まる頃に、水交換・夜間落水・2～3日程度の田干しを実施しましょう。



＜春季農作業事故防止運動強化月間 4/10～6/10＞

STOP! 農作業事故 無理せずゆとりある作業を心がけましょう。